

港区学校版環境マネジメントシステム

みなエコダイアリー

令和5年度

園・学校名： 港区立高陵中学校

みなエコダイアリーの概要

1 みなエコダイアリーとは

みなエコダイアリーとは、港区学校版環境マネジメントシステム「みなと子どもエコアクション（みなエコ）」の各園・学校の活動を、年間を通して振り返れるように構成された、日記形式の記録表です。

環境活動の良かった点、課題などを書き留めておき、次年度のみなエコ担当者に活動経験で培った貴重な情報を引き継いでいくことを作成の目的とします。

2 使い方

各年度の重点的取組事項（2ページ参照）に基づく取組を中心に、各園・学校で取り組んだことを、各ページの様式に従って記入します。

記入の際は、文字だけでなく写真を添付し、写真の説明文を書く要領で活動内容を記入してください。

記入にあたっての細かい指定はありません。活動の具体的な内容がわかるよう、工夫して記入してください。

3 報告

みなエコの取組状況の確認のため、毎年9月及び12月に、作成途中のダイアリーを教育委員会に提出してください。（提出については別途通知します。）

みなエコ年間スケジュール

時期		
4月	担当者選任 みなエコ研修	今年度のみなエコ担当者を選任します。 みなエコ活動について説明します。
4～3月	○強化取組事項、 年間活動計画等の設定 ○エコ活動の実施 (年度末まで)	重点的取組事項を基に、「強化取組事項」を設定します。 強化取組事項の目標達成に向けて、「環境活動宣言書」「推進体制」を作成します。 実施したエコ活動の内容を随時ダイアリーに記録します。
9月	みなエコダイアリー — 提出（中間報告）	「9月の振り返り」を記入したダイアリーを、教育委員会に提出します。
12月	みなエコダイアリー — 提出（最終報告）	「12月の振り返り」「感想・意見」「自己評価」を記入したダイアリーを教育委員会に提出します。
3月	みなエコ表彰式	3月の校園長会で、みなエコ表彰式を行います。
随時	SNS等による情報 発信	各園・学校で行った環境活動について、HPやツイッターなどで情報発信 します。
	学校訪問	教育委員会事務局が各校を訪問し、活動についての内容確認及び聞き取り を行います。

みなエコダイアリー 目次

内容		ページ
みなエコ年間スケジュール		1
重点的取組事項について		2
環境活動宣言書		3
推進体制		4
増やそうの取組～ビオトープ～	実施計画	5
	活動記録	6～8
減らそうの取組～3Rの推進～	実施計画	9
	活動記録	10～12
振り返り	増やそうの取組～ビオトープ～	13
	減らそうの取組～3Rの推進～	14
	感想・意見	15
周知・公表/引継事項		16

重点的取組事項について

重点的取組事項とは、港区学校版環境マネジメントシステム推進委員会が決定する、積極的に取り組むことが望まれる活動テーマです。

令和5年重点的取組事項テーマ

増やそう & 減らそう

～ビオトープによる環境学習と3Rの推進～

○増やそう

ビオトープを用いて、身近な生き物の観察や飼育を通して、その生態等について学ぶ環境学習を展開するほか、そこに生活する植物や生き物を新たに導入するなどして、生物の多様性について新たな発見をする機会の創出を図ります。

○減らそう

昨今の主要な環境問題（地球温暖化、海洋プラスチック問題、エネルギー資源枯渇等）やSDGsの観点と、これまでの各園・学校での「みなエコ」による取組の継続性や発展性を踏まえ、3Rの一層の推進を図ります。（どの“R”の取組を選択しても可（複数の選択や組合せも可）とします。）

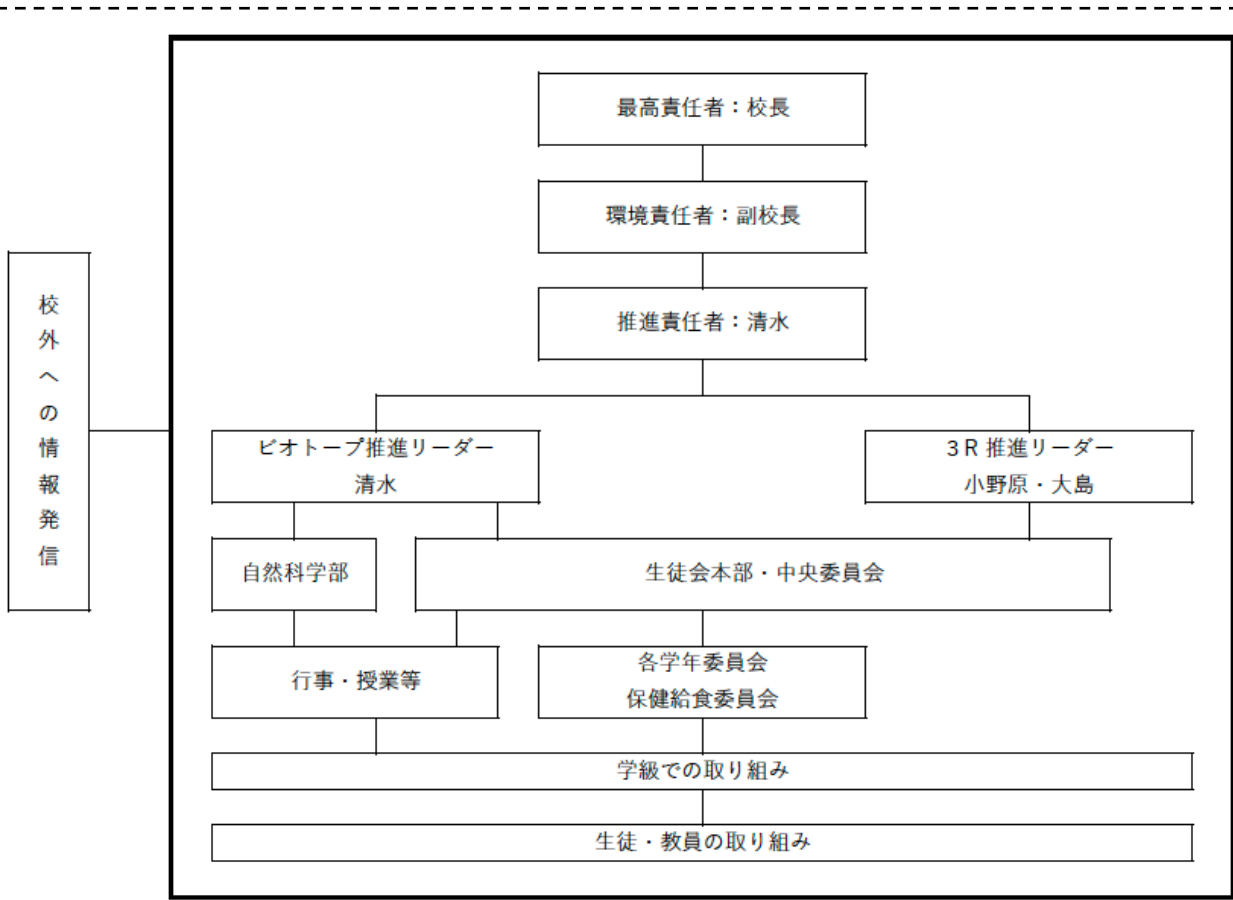
かんきょうかつどうせんげんしょ
環境活動宣言書

かんきょう はいりょ ようちえん
わたしたちは環境に配慮した幼稚園・
めざ いか とく
学校を目指し、以下のことに取り組みます。

- ・ 屋上緑地を活用したビオトープ創りを通して生態系を守る大切さを考えるきっかけとします。
- ・ もったいないプロジェクトとして残菜を減らす、使い捨てのものを減らす活動を進めます。

園・学校名： 港区立高陵中学校

推進体制



役割分担	主な役割
最高責任者	環境活動全般の総責任者
環境責任者	環境活動計画・実施・改善点の確認
推進責任者	環境活動計画の立案・実施、教員や外部人材との調整
推進リーダー	部門ごとの環境活動実施責任者

【増やそう実施計画(ビオトープ)】

ビオトープ活動目標

・屋上緑地を活用したビオトープ創りを通して、生態系を守る大切さを知るきっかけとする。

既存のビオトープでの活動

新規で作成するビオトープでの活動

※該当するものにチェックしてください。

目標の設定理由：

本校にはビオトープは無いものの、屋上に広い緑地があるため、その土地を活用したビオトープ創りを自然科学部を中心に進める。また、生態系を守る大切さを全生徒へと広げるために、

年間活動計画

取組事項、実施学年、実施予定時期等を記載してください。

- ・4月 屋上緑地を活用したビオトープ創り
- ・5月～6月 メダカや金魚などの生物の飼育、観察
- ・9月～10月 学芸発表会における発表活動
- ・3月 1年間の振り返り、次年度への引き継ぎ

SNS等による情報発信計画

発信内容、発信方法、発信予定日等を記載してください。

- ・7月 自然科学部の生徒が、ビオトープについてまとめた新聞を作成し、校内とHPなどを利用して発信する。
- ・10月 学芸発表会において、活動報告を行う。

【ビオトープ活動記録(9月)】

9月時点

屋上緑地を活用したビオトープ製作



実施時期

4月～3月

活動内容

・屋上緑地を活用したビオトープを自然科学部が中心となって製作した。

幼児・児童・生徒の活動の様子

・一からビオトープを作る作業は大変ながらもとても新鮮で、出来上がった際は喜びと達成感にあふれていました。

園・校独自で工夫した点

・穴を掘った後に、防水シートを敷き、そこに水を貯めて金魚やメダカを入れた。途中で水の流れをつくるために、ホースから水を出して暑さにも耐えられるようにした。

活動の成果

・ビオトープというものを自分たちでつくるといふまたとない活動ができた。現在、トンボが飛来してきており、生態系が広がると本来の役割を果たすはずである。

【ビオトープ活動記録】

1

屋上緑地を活用したビオトープの作成


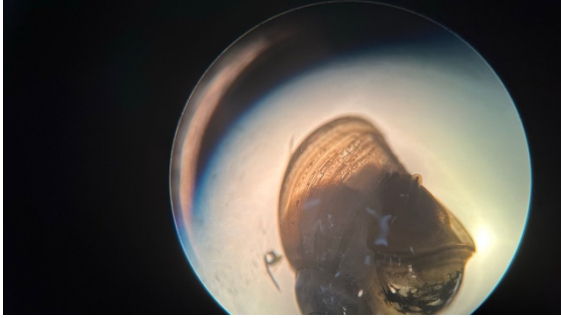
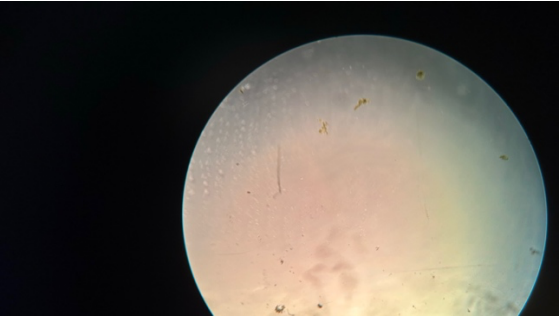


実施時期	4月～3月
活動内容	・屋上緑地を活用したビオトープを自然科学部が中心となって製作した。
幼児・児童・生徒の活動の様子	・一からビオトープを作る作業は大変ながらもとても新鮮で、出来上がった際は喜びと達成感にあふれていました。
園・校独自で工夫した点	・穴を掘った後に、防水シートを敷き、そこに水を貯めて金魚やメダカを入れた。途中で水の流れをつくるために、ホースから水を出して暑さにも耐えられるようにした。
活動の成果	・ビオトープというものを自分たちでつくるというまたとない活動ができた。現在、トンボが飛来してきており、生態系が広がると本来の役割を果たすはずである。

【ビオトープ活動記録】

2	他施設のビオトープの視察
<div data-bbox="740 344 1382 703" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="172 752 818 1115" data-label="Image"> </div>	
実施時期	4月
活動内容	担当教員が港区庁舎とみなと区民の森にあるビオトープを視察し、視察した内容を外部指導員や担当教員と共有した。
幼児・児童・生徒の活動の様子	なし
園・校独自で工夫した点	視察した内容を外部指導員や担当教員と共有した。
活動の成果	生息する生物や水の流れをどのように確保するかなど、自校で製作するビオトープの参考になった。

【ビオトープ活動記録】

3	ビオトープに生息する生物を調べる授業実践
  	
実施時期	10月
活動内容	ビオトープに生息する生物を実際に顕微鏡等で観察し、その生物について調べた。
幼児・児童・生徒の活動の様子	実際に生きている生物を観察することはあまり少ないため、とても興味関心を持って取り組んでいた。ビオトープがあることを知らない生徒もいたため、授業外でも興味を持つようになった。
園・校独自で工夫した点	顕微鏡での観察に加え、メダカの走流性の実験や、メダカの毛細血管の観察など2年生生物分野の内容と関連させた。
活動の成果	単に水生生物を調べるだけでなく、実際にいる生物を観察することで、ビオトープを身近に感じさせるとともに、その役割を理解させることができた。

【減らそう実施計画】

3R活動目標

目標：給食の残菜率を示す取り組みに加え、残菜として出た食材を再利用できる方法を考え、実践する。
コンタクトレンズの空ケースのリサイクル活動を継続して進め、令和4年度実績よりも多く回収する。

- 昨年度からの取組を継続している
 昨年度からの取組を発展・改善している
 新規取組事項である
※該当するものにチェックしてください。

目標の設定理由：
・給食の残菜率を示し、できる限り残さずに食べる大切さは生徒に定着してきた。今年度はさらに出してしまう残菜をどのように活用できるのかという視点で食材の再利用方法を考え、実践していく。

年間活動計画

取組事項、実施学年、実施予定時期等を記載してください。

- ・通年 コンタクトレンズの空ケースのリサイクル活動を進める。
生徒会役員は集会やブログ等での発信と、企業への送付活動を行う。
- ・通年 生徒会役員は栄養士と協力して、残菜を減らすだけでなく活用できる方法としてコンポストなどを取り入れる活動を進める。取り組みを全学級へと広げ、生徒の3Rの意識向上へとつなげる。

SNS等による情報発信計画

発信内容、発信方法、発信予定日等を記載してください。

- ・通年 生徒会役員が主体となって進めるブログ活動を活用し発信する。

【3R活動記録(9月)】

9月時点

・コンポストの活用、コンタクトレンズ空ケースの資源送付



実施時期

4月～

活動内容

給食室で余った野菜等を、コンポストを用いて肥料化する取り組みを、生徒会役員と自然科学部が中心となって取り組んだ。コンタクトレンズの空ケース収集や残菜率の報告は継続して実施する。

幼児・児童・生徒の活動の様子

定期的に中身を混ぜる必要があるため、夏休み中も当番制にした。やらないと腐ってしまうため、活用するための大変さややりがいを感じることができた。


園・校独自で工夫した点

残菜率を示すだけでなく、その残菜をどうするのかということを生徒会役員中心に話し合い、コンポストのアイデアができた。

活動の成果

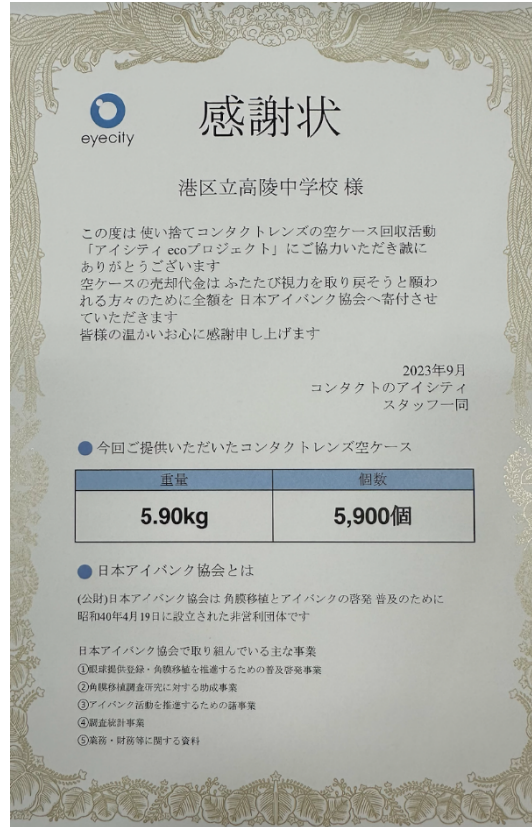
実際に屋上菜園で肥料として活用することで、残ってしまった食材を利用できる一つの方法として取り組むことができた。今後は周知活動もしていきたい。

【3R活動記録】

1	・コンポストを用いた食材の再利用
	
実施時期	6月～
活動内容	給食室で余った野菜等を、コンポストを用いて肥料化する取り組みを、生徒会役員と自然科学部が中心となって取り組んだ。
幼児・児童・生徒の活動の様子	定期的に中身を混ぜる必要があるため、夏休み中も当番制にした。やらないと腐ってしまうため、活用するための大変さややりがいを感じることができた。
園・校独自で工夫した点	残菜率を示すだけでなく、その残菜をどうするのかということを生徒会役員中心に話し合い、コンポストのアイデアができた。
活動の成果	実際に屋上菜園で肥料として活用することで、残ってしまった食材を利用できる一つの方法として取り組むことができた。今後は他の生徒にも周知していきたい。

【3R活動記録】

2	・コンタクトレンズ空ケースのリサイクル活動
---	-----------------------



実施時期	4月～3月
活動内容	コンタクトレンズの空ケース収集をコンタクトのアイシティと連携して実施する。収集した空ケースは、空ケースの再資源化による環境保全や障がい者の自立・就労支援、日本アイバンク協会への寄付として活用される。
幼児・児童・生徒の活動の様子	生徒会役員が中心に呼びかけをし、少しずつではあるが活動が浸透し始めた。コンタクトレンズを日常的に使っている生徒だけでなく、家庭にも呼びかけて、積極的に協力をしてくれた。
園・校独自で工夫した点	生徒が通る階段下に回収ボックスを設置した。学年朝礼や生徒朝礼で生徒会役員から全校に呼びかけをした。
活動の成果	活動も2年目となり、大分周知されてきた。9月段階でBOXがいっぱいになり、回収物を企業に送ることができ、収集量は5.90kgとなった。今後も継続して回収活動を続けていきたい。

【3R活動記録】

3	・給食の残菜率の記録・報告活動
---	-----------------



実施時期	4月～3月
活動内容	<p>学年別残菜グラフと合わせて、SDGsに関するポスターを掲示した。</p> <p>また、調理師さんからの手紙を掲示することで、日頃、直接関わりが少ない調理師さんの活動を知り、給食に対する生徒の関心を高めた。</p>
幼児・児童・生徒の活動の様子	<p>SDGsとの関連についても興味をもっている生徒が見られた。また、調理師さんからの残菜が減ったことに対する感謝の言葉を見て、生徒の意識が高まっていた。</p>
園・校独自で工夫した点	<p>残菜グラフとともに、生徒の目につきやすいところに掲示しているので、給食を残さない取り組みについて意識しやすくなった。</p>
活動の成果	<p>生徒会役員や保健給食委員を中心に掲示物を作成することで、主体的に残菜を減らしていく取り組みへとつながった。</p>

【みなエコ活動の振り返り(12月)】

・ビオトープの成果

増やそう

活動目標

- ・屋上緑地を活用したビオトープ創りを通して、生態系を守る大切さを知るきっかけとする。

活動の成果

(ビオトープ写真を添付)



(活動によるビオトープの変化)

- ・ビオトープというものを自分たちでつくるといふまたとない活動ができた。現在、トンボが飛来してきており、生態系が広がる様子も見られた。
- ・一方で、メダカが死滅してしまったり、雑草がたくさん生えてくるなど、思うようにうまくいかなかった

(SNS等による情報発信)

- ・学校HPにて

振り返り

ビオトープについては、初めは限られた中で製作するしかなく、教育センターにあるような水槽を用いたものを作る方針もあったが、本校自然科学部外部指導員の岡田様の多大なご尽力により、屋上緑地に穴を掘って外環境とつながるビオトープができた。

自然科学部が中心となって管理をしていたが、授業実践を通してそれ以外の生徒も外の様子を見るようになり、意識が高まった。

今後は製作したビオトープをいかに引き継いで活用していくかが課題である。

・3R推進の成果(12月)

活動目標

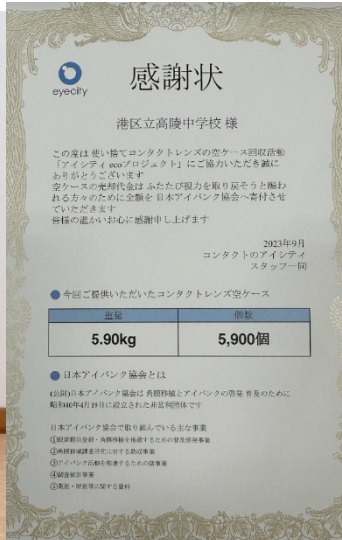
減らそう

給食の残菜率を示す取り組みに加え、残菜として出た食材を再利用できる方法を考え、実践する。

コンタクトレンズの空ケースのリサイクル活動を継続して進め、令和4年度実績よりも多く回収する。

実績（実績報告の形式については適宜変更していただいて構いません。）

(写真、図を添付)



(目標の達成状況)

- ・コンタクトレンズ空ケースの収集活動について、目標に掲げた通り、前年度よりも多い「5.90kg」が集まり、業者に寄付、感謝状をいただくことができた。
- ・前年度まで取り組んでいた残菜を減らす呼びかけ運動を発展させ、コンポストの取り組みを始めることができた。

(SNS等による情報発信)

- ・学校 HP、学校だより

振り返り

・コンタクトレンズ空ケースの収集活動については、目標に掲げた通り、前年度よりも多い「5.90kg」が集まった。集めた空ケースは実際に業者に寄付し、感謝状をいただくことができた。来年度以降も継続して収集活動を進めていきたい。

・コンポストの取り組みは生徒会を中心に運営し、残菜を減らすだけでなく、実際に肥料などとして活用するという新たなサイクルができた。来年度以降は本校の畑で活用するだけでなく、地域の方々に配布などもしていきたい。